

## 9037 ハマキョウレックス

大須賀 秀徳 (オオスカ ヒデノリ)

株式会社ハマキョウレックス社長

### 貨物自動車運送事業が好調で営業収益の増加をもたらす

#### ◆体制刷新について

(株)ハマキョウレックス代表取締役社長 大須賀秀徳

現在当社は、元従業員の不正行為により多大な損害や迷惑を被った関係各位に対して深く陳謝の意を表し、全社一丸となって再発防止に向けた取り組みを実施しているところである。具体的には、従前各センターの業務としていた債権回収を、当社管理部と顧客の経理部を直結することで早期回収を図ること。各センターにサブセンター長を配置し、資料のダブルチェックを行って内部牽制機能を強化すること。組織全体を変更して支社制を導入し、管理監督機能の強化を図ること。以上の取り組みによって速やかに新体制の確立を果たし、信頼回復に向けてまい進する決意である。

#### ◆2014年3月期第2四半期の概況

当上期は営業収益 444 億 31 百万円(前年同期比 1.0%増)、営業利益 25 億 99 百万円(同 15.6%減)、経常利益 26 億 92 百万円(同 15.1%減)、四半期純利益 12 億 16 百万円(同 25.7%減)となった。営業収益の増加は、貨物自動車運送事業での物量増加と前期の新規荷主の獲得による。営業利益・経常利益は、主力の物流センター事業での物量減が大きく影響して減益となった。四半期純利益は、経常利益の減益に加え、和解金等の特別損失が発生して減益となっている。

物流センター事業の営業収益は、前期オープンセンターで 11 億 72 百万円、当上期オープンセンターで 6 億 62 百万円の増である。既存センターでは、増収センターの合計が 15 億 95 百万円増、減収センターの合計が 36 億 9 百万円減となった。上期に 9 社を新規受託し、前期の受託で未稼働だった 5 社を合わせた 14 社のうち 10 社が稼働している。物流センター総数は 74 となっている。

貨物自動車運送事業の営業収益は、前年同期比 6 億 7 百万円増で 234 億 77 百万円となった。近物レックスグループでの物量増加および新規顧客獲得で 8 億 25 百万円増、家電関連の物量減少で 2 億 43 百万円減、子会社によって 25 百万円増となっている。

SG ホールディングスとは、5 月に資本業務提携契約を締結したが、9 月 27 日付で中止という結果になった。しかし両社は現在も良好な関係にあり、今後も協力体制を維持していくことでは一致している。

#### ◆2014年3月期通期の業績予想(連結)

通期では営業収益 910 億円(前期比 2.3%増)、営業利益 69 億円(同 18.2%増)、経常利益 69 億円(同 15.8%増)と見込んでいる。第 3 四半期の状況がまだ不透明であることから、今回は期初の予想を据え置きとした。直近の単月でようやく前年同期を上回る数字が出ており回復の兆しが見えてきている。

#### ◆中期経営計画

最終年度となる 2015 年 3 月期の目標は営業収益 960 億円、経常利益 74 億円としている。計画達成への取り組みとしては、①3PL を軸として拡大戦略をとる。②「日々収支」、「全員参加」、「コミュニケーション」のキーワードを中心とした取り組みを継続する。③3PL 事業とグループ各社の融合を更に積極的に進める。④物流センター事業で新規顧客からの年間受託件数 15 社以上を目指す。⑤上海、バングラデシュ、香港の海外拠点では品質向上を柱に体制を強化する。以上の実践で上期の足踏み状態からの脱却を目指す。

## ◆2014 年 3 月期第 2 四半期決算実績

(株)ハマキョウレックス経営企画室課長 石塚智規

上期は営業収益が第 1、第 2 四半期ともに前年同期比プラスで着地したが、各利益項目はマイナスで終わった。セグメント別では物流センター事業の営業利益が物量減少の結果マイナスになったことに対して、貨物自動車運送事業の営業利益は第 1、第 2 四半期とも順調に推移している。

バランスシートでは総資産が前期末比 1 億 19 百万円減の 868 億 1 百万円となった。主な要因は、現金・預金、受取手形および売掛金の減少等で流動資産が減少し、有形固定資産等の増加で固定資産が増加したことによる。負債は 13 億 52 百万円減少し、543 億 52 百万円となった。主な減少要因は支払手形および買掛金、その他流動負債の減少で固定負債が増加したことによる。純資産は 12 億 32 百万円増加で 324 億 48 百万円となった。自己資本比率は 1.3 ポイント増で 32.3 ポイントとなっている。

営業活動キャッシュフローは 24 億 37 百万円の資金獲得。投資活動キャッシュフローは 14 億 36 百万円の資金使用。財務活動キャッシュフローは 19 億 23 百万円の資金使用という形になっている。

## ◆近物レックス第 2 四半期の業績

近物レックス(株)代表取締役社長 堀内 悟

営業収益 179 億 93 百万円(前年同期比 4.5%増)、営業利益 2 億 98 百万円(同 39.1%増)、経常利益 2 億 39 百万円(同 46.5%増)となっている。営業収益の増加は主力商品の積み合わせの収入増によるもので、営業利益・経常利益の増加は営業収益の増加と日々管理の諸経費抑制の効果である。

## ◆近物レックス下期の取り組み

下期に向けての取り組みとして以下の 4 点に注力したい。①情勢に適合した運賃への改定を行う。②同業との相互取引拡大を目指し、幹線・集配・施設での取引を推進する。③グループ会社との融合を図る。④ドライブレコーダー導入等で安全への取り組みを強化する。

近物レックス単体の通期業績予想は、営業収益 363 億 40 百万円(計画比 1.4%増)、営業利益 5 億 42 百万円(同 2.6%増)、経常利益 4 億 30 百万円(同 13.1%増)としている。

## ◆質 疑 応 答◆

営業利益の計画未達の詳細を知りたい。

上期はアパレル関係が苦戦で、季節の波動が去年の暮れから不規則な動きをしたため、センターが満杯になって作業生産性が悪化していた。しかし物の動きが変わりつつあり、第 3 四半期はそこに期待している。

近物レックス(株)の計画比上振れの要因は自社の努力の結果か市場環境によるものか。

各路線会社の収益も増加しているのを見ると自社努力だけではないと分析している。ただし新規取引先は前期

を大きく上回る取引が始まっているので、この点は自社努力の結果といえる。また同業大手のロット商品配送からの撤退もあり、これも寄与したと考えている。

**特別損失の和解金の詳細を知りたい。**

顧客の1社の物流センターで顧客資産のマテハン変更が行われたことに付随して2カ月ほど混乱があった。運営していた当社の責任を検討した結果、プロジェクトチームの各社割合という形で試算された数字を和解金としたものである。交渉では当社の言い分を主張したが、顧客の状況に配慮して今回は飲んだということである。

**物流センター事業の利益率 8.6 というのは一時的なものか、それとも今後も続くのか。**

今まで当社の物流センター事業の利益率は比較的高いところで推移してきた。今回若干落としているが、物流センター事業は基本的に顧客のコスト削減が目的なので、今の利益率がマックスだと考えている。

**佐川との統合は白紙に戻ったが、今後も事業基盤を拡大していく方針なのか。**

もともとこれは当社が企画した案件ではなく、先方から来た話を受けたという形なので、当社の方向性に沿うものではなかった。したがって基本的には今後も M&A を積極的に行う考えはない。あくまでも自前の物流機能、新規案件で伸ばすという方向性は変えていない。

**ヤマトホールディングスの BtoB への本格参入に対して御社はどう対応するのか。**

ヤマトはもともとコンペティターなので、特に変わりはないと考えている。ヤマトが足回り基準で物事を考えるのに対して当社は庫内の現場基準なので、同じコンペに参加することもなく、切り分けはできている。当社の個性は現場力と考えているので、この点を生かして 3PL 事業を進めていきたい。

**価格の動向を知りたい。**

物流センター事業の価格は、まだたたき合いがあつて下げどまってははいない。ただし足回りの部分では値上げも発生しており、上昇に転じつつあるとみている。

**下期にアパレルは期待できるとのことだが、食品、医療、雑貨の見通しはどうか。**

動きの大きいアパレルに対して、食品とメディカル関連は基本的に安定しており、順調な動きを見せている。

**第3四半期の売上と営業利益はどんな傾向になりそうなのか。**

現在は順調だが、現場の倉庫は物がいっぱいに入っているので、これが動いたらどうなるのかという判断はしにくい。ただ、前年同期よりよくなるのは間違いないと考えている。

**既存の物流センターの売上の減の拡大は不祥事の影響なのか。**

既存センターの減に不祥事の影響は出ていない。純粋な物量減少と、物流システムの変更によるところが大きいとみている。

**物流で人やトラックの不足が問題になっているが、その対策で価格転嫁はあり得るか。**

現在中部圏で非常に人が不足しており、ドライバーがなかなか確保できない。年末に大きく影響が出るかもしれない。それをしっかり説明できれば価格転嫁も可能ではないかと考えている。

近物の 4.5%増収の単価要因と数量要因の割合を知りたい。  
物量増によるものがほとんどである。

(平成 25 年 11 月 12 日・東京)

\* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。

<http://www.hamakyorex.co.jp/ir/library/presentation/index.html>